

# 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

## 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	長野市立七二会小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	お蚕様の糸が紡ぐ地域と学校の連携

### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

#### 1, 活動に至る経緯と特色



長野市七二会地区はかつて大規模な養蚕地帯であった。七二会小学校の校章にも桑の葉がデザイン化されるほどだが、近年、七二会の養蚕業は衰退の一途をたどり、養蚕農家は一軒もない。七二会小学校は、全校児童が21名の山間地小規模校であり、地域文化の学習を総合的な学習の時間に取り入れ、5年前から蚕の学習を積んできた。そして3年前から試行錯誤を繰り返し、繭から生糸を直接灯籠木枠に巻き込む技術を開発し、「シルク灯籠」として作品を完成させることができた。

蚕を題材とした活動には次のような特色がある。

- ①七二会小学校の蚕学習は5年前からはじまり、繭の活用法を試行錯誤してきている大変息が長い学習であること。
- ②養蚕とシルク灯籠作りの技術は、高学年から低学年へと縦糸のように毎年引き継がれていること。
- ③桑の供給、養蚕の技術指導など横糸のように地域に支えられている活動であること。
- ④蚕を通して、深い命の学びができること。

#### 2, 活動・研究の目的

- ①七二会の主産業であった養蚕を体験することを通して、蚕（生き物）への畏敬の念を深めるとともに、先人の知恵を学び、地域に誇りを持つことができる。
- ②七二会小学校が開発した生糸を直接木枠に巻き付ける『シルク灯籠』の技術を地域に広め、地域おこしの一助とする。

#### 3, 活動内容

##### (1) 蚕に愛情を注いでいく児童

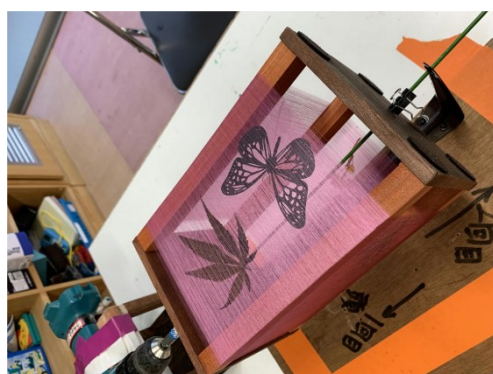
はじめて蚕を見たときの児童の反応は「かわいい」「ちいさくて虫めがねが必要」「気持ち悪い」「絶対さわれない」と様々であった。それが登校してきてすぐ自分の担当するおよそ120匹の小さい蚕に、はさみで桑を切って世話を始めると「だんだんさわれるようになってきたよ」「かわいく思えてきた」と変わってくる。また次のような場面があった。120頭の中には成長の遅い蚕がいる。男子児童はその一番小さい蚕に「ちびまるこ」と名づけた。「きのうより大きくなった」「もりもり桑をたべろよ〜!」と様々な声をかけていた。

以下は地域に七二会小学校の蚕学習を発表した際の地域の方からのお手紙である。

時代が移り、桑運びなどの手伝いをしていた子ども時代を体験した70歳代の地域住民としては、とても感慨深いものがあります。小学校の勉強で地域を支えた唯一の産業だった養蚕業、そしてその歴史について学んでくれたことがうれしいです。ふるさとを思う子どもが育ってほしいものです。

## (2) シルク灯籠を通して活動の幅を広げる

インターネットで情報を集めていくと、養蚕体験はするが蚕からとりだされた生糸を使った活動があまりないことに気づく。七二会小学校も令和2年度には3000個をこえる繭ができ、その活用法を「シルク灯籠」というオリジナルの作品に求めた。その完成には3年半の歳月がかかった。



一番左が七二会の特色であるアサギマダラの切り絵を生糸の間に挟み込んだ作品で、中央は地域から提供された切り絵を飾り付けた作品である。特に令和5年度の繭を草木で染める研究は、今までの作品の色が白ばかりで単調という点と目にライトが強すぎるという地域からのご意見から令和5年2学期にスタートした。児童は図書館の染め物の本を読みながら学校周辺にはえていたタンポポ、ヨモギに全員で挑戦してから、各自でオリジナルの草木染めに挑戦することとなった。最終的に古代米、マーガレット、赤しそ、もみじ、紅茶、クランベリー、ブルーベリー、コーヒー、ナス、シダなどから色を抽出し、銅・錫・鉄・ミョウバンなどの焙煎液を加えて染色に挑戦した。一番右のシルク灯籠はクエン酸を使いブルーベリーで染色した生糸を巻き付けた制作途中の作品である。

七二会地区にシルク灯籠の話が広まり、七二会公民館で講座を開きたいという要望が本校に来た。また児童も、自分たちの磨いた技術を地域に広めたいと願っていたので、令和5年7月に児童2名と教諭を講師にして10名の受講者を招いて2日に分けて講座を開いた。そこでの受講者の感想を掲載したいと思う。

先日は大変貴重な体験をいただきありがとうございました。難しいかな？できるかな？そんなことを考えながら七二会公民館に車を走らせました。先生とAさん、Bさんの説明を聞きながら灯籠作りが始まりました。湯の中に浮かべた繭玉から一本の糸を探り出す、細やかな手作業に驚きました。それを木枠に絡ませます。途中で糸が切れてしまい、Aさんに助けを求めると走ってきて「お湯を多くしましょう」と指導をいただきました。すると繭がお湯の中で回転しはじめました。4年生ってすごいなあ～作業工程、すべてを理解できてて・・・片づけも自分からてきぱきとできていて感心しました。おかげさまで見事な灯籠が作れて、我が家で光り輝いています。

複数の長野県内の小学校の先生方が「シルク灯籠の作り方を学びたい」と本校を訪れている。実際に糸をとる作業を体験してもらおうとともに「シルク灯籠の作成手引書」(注1)をお渡しすることができた。さらに本校の蚕の学習が38分のドキュメント番組(注2)となった。この番組の全国放送をきっかけに、視聴された埼玉県为学校関係者の方からお電話をいただいた。また、沖縄の方からも「映像から流れてくる子どもたちとカイコの“命との向き合い”に釘づけになりました。」とお手紙と絵本をいただいた。学校としては、シルク灯籠をお礼として送り、交流が始まりつつある。

令和5年度、43個のシルク灯籠を完成させることができました。これもちゅうでん教育振興助成のおかげと感謝しております。しかし今後とも工夫を重ね、七二会小学校は地域とともに蚕を学び続けていきます。

注1: 「シルク灯籠(作成虎の巻き)～材料選択から、組立手順まで～ (2022年西澤 浩)

注2: いのちを紡ぐ～カイコと過ごした小学生の記録～【第48回日本ケーブルテレビ大賞番組アワード・準グランプリ】38分

<https://www.youtube.com/watch?v=FclStck8zBc>